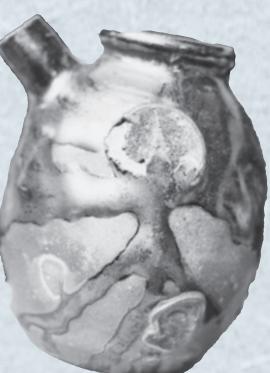


五反林から世界へ! （ひたばやし）



縁豊かな多々の自然の中で、作陶活動に専念する陶芸家のマイケル・マルティノさん。アメリカ出身のマルティノさんは、多々でワークショップを開催し、陶芸の魅力を世界に発信しています。

リラックスした様子で轆轤を回すマイケル・マルティノさんは多々の風土と土に魅せられ、アメリカから移住してきた、唐津焼の陶芸家。

昔から土ものが好きで、その中でも唐津焼は種類が豊富で、いろんな挑戦ができるのがおもしろいです。特に2つの釉薬を流して模様を作る朝鮮唐津は、見た目がダイナミックなので一眼で唐津焼とわかります。多々に移り住んだ後に、「陶祖」李參平の窯跡が近くにあることが分かり、何かの縁でここに引き寄せられたように感じています」と語るマルティノさん。

アメリカでシステムエンジニアとして活躍していましたが、インターネット・バブルが弾けたのを機に、日本での滞在経験があり、日本語が堪能なことから転職を考え日本へ。奥さんの実家が近く、自然豊かな多々が気に入り、12年前に移住しました。

趣味で陶芸を始め、陶器の魅力をアメリカにも広めたいと思うようになりました。いろいろな陶芸家と交流する中で、師匠となる陶芸家の鶴田純久さんに出会います。鶴田さんから唐津焼きの技法を教わり、道具などもそろえていくにつれて、この仕事で食べていきたいと思い、2003年から本格的に作陶を開始。2005年に五反林窯を築きました。使い手が自由な発想で使える器づくりを心がけているという、マルティノさんの作品はさまざまな国際展でも入選し、高い評価を得ています。

2010年からは「ワークショップ in 多々」と題し、多々はもちろん、世界中から参加者を募り交流を重ね、唐津焼の魅力を発信しています。「日本に初めて来て27年になりますが、多々の人たちは本当に親切で良い